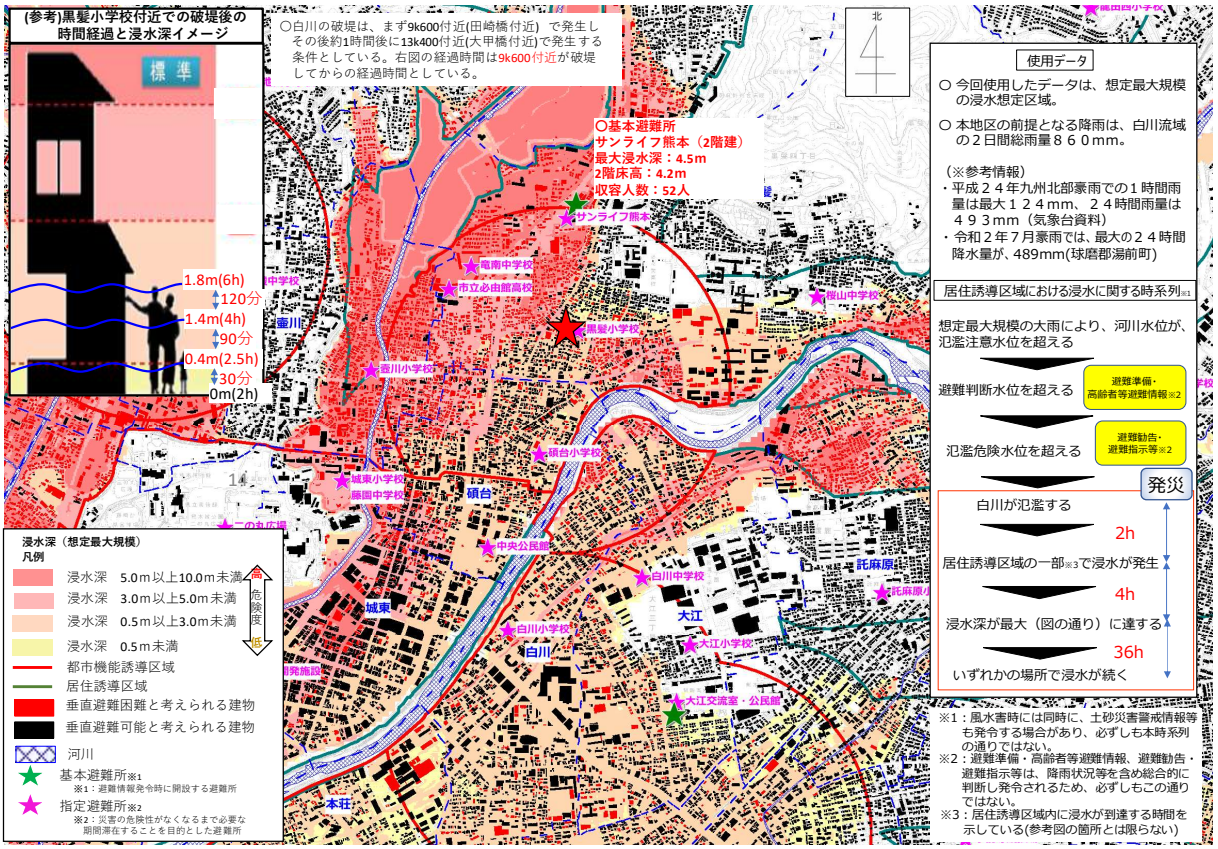
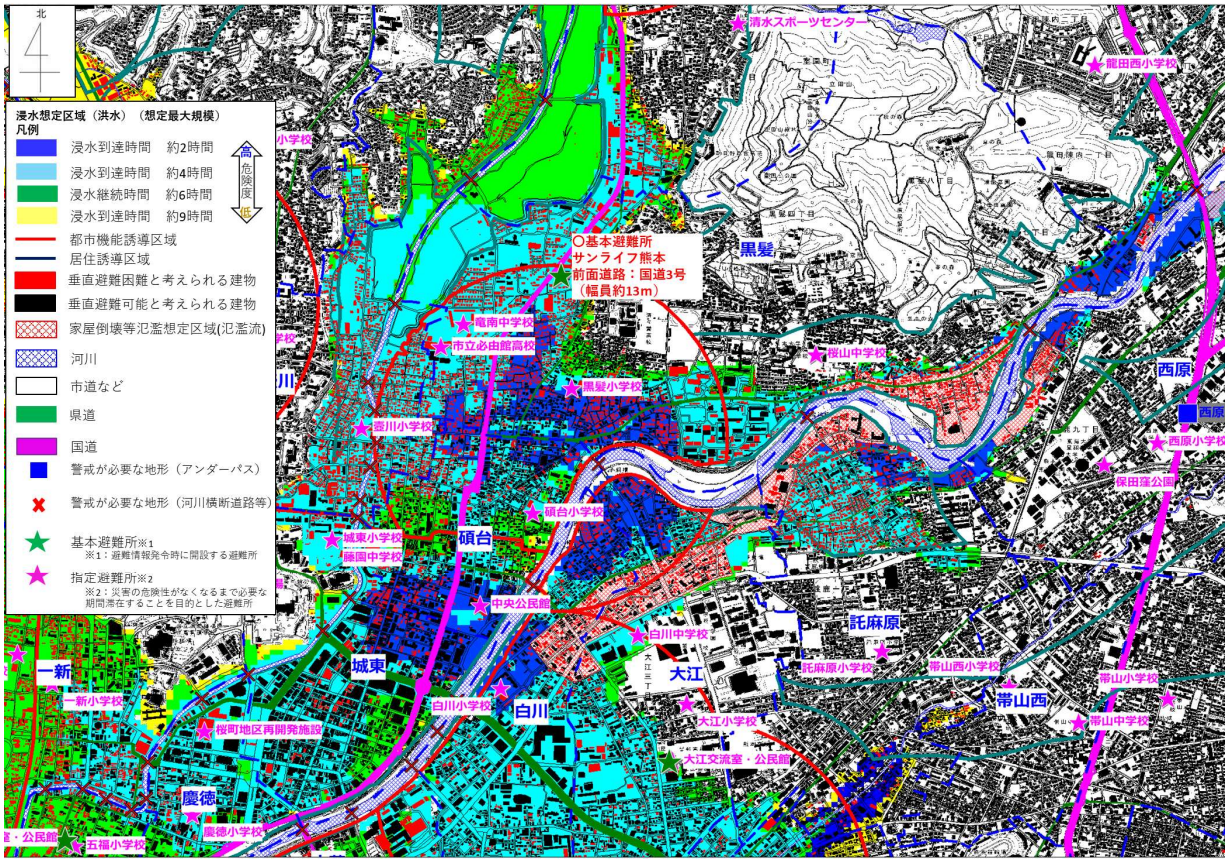
【(参考資料)個別の分析結果(⑤子飼地区)】

(ア)浸水深と都市情報の組み合わせ

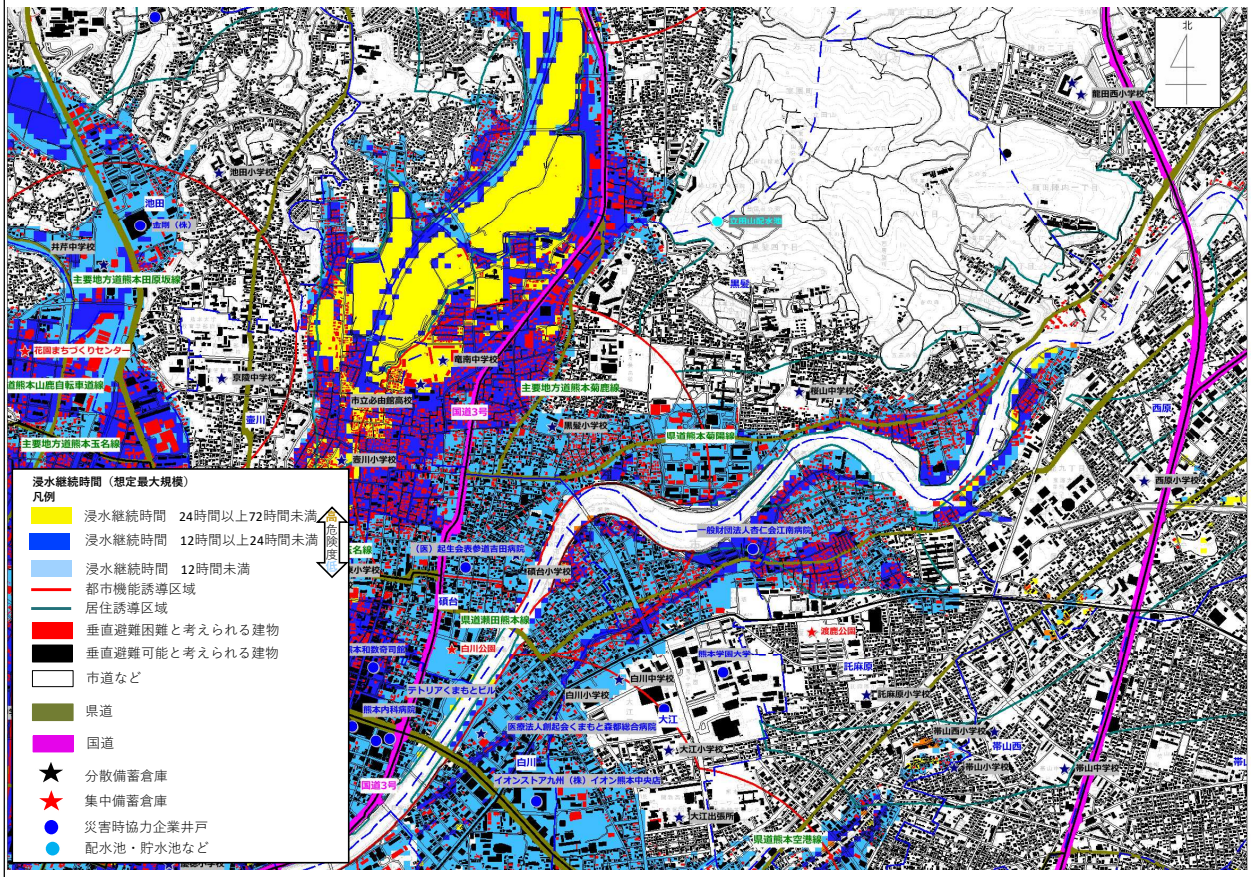


(イ)浸水到達時間と都市情報の組み合わせ



【(参考資料)個別の分析結果(⑤子飼地区)】

(ウ)浸水継続時間と都市情報の組み合わせ



目安となる情報と個別の課題(⑤子飼地区)

〔基礎情報〕
・地区内人口は、43,099人で、人口密度は75.3人/ha。
・地区内高齢者割合は、24.3%。

〔防災基盤（避難所関連情報等）〕
・防災拠点（熊本市役所本庁舎）が存在。
・基本避難所は、サンライフ熊本
約2,400m圏で、居住誘導区域を包含。2階建（収容人数約52人）、床高4.2m、最大4.5m浸水
・指定避難所は6か所（桜山中学校、黒髪小学校、硯台小学校、竜南中学校、壺川小学校、必由館高校）。
約800m圏で、居住誘導区域を包含。ただし、南部の白川左岸側の住民は、水前寺・九品寺方面への避難と考えられる。
・集中備蓄倉庫はなし、分散備蓄倉庫は6か所、災害時協力企業井戸は2か所存在。

〔災害リスク情報〕
・垂直避難に必要な階数　区域(浸水深0.5m～3.0m)は2階以上。
区域(浸水深3.0m～5.0m)は3階以上。
区域(浸水深5.0m～10.0m)は5階以上。
・(黒髪小学校付近の場合)白川破堤後、約2時間で浸水が到達し、
到達後約30分で浸水深が約0.4mとなり、避難困難になると考えられる。
・河川橋が14か所あり、通行時には注意が必要。
・白川周辺に家屋倒壊等氾濫想定区域（氾濫流）が存在するが、
基本避難所及び指定避難所が近接して区域外に存在。
・基本避難所周辺の道路幅員は約13m。（国道3号）
・地区の多くが1日以内の浸水継続だが、北西部の
指定避難所付近では、約3日間浸水が継続。
・垂直避難困難な建物が、48%存在。(※想定最大規模時)

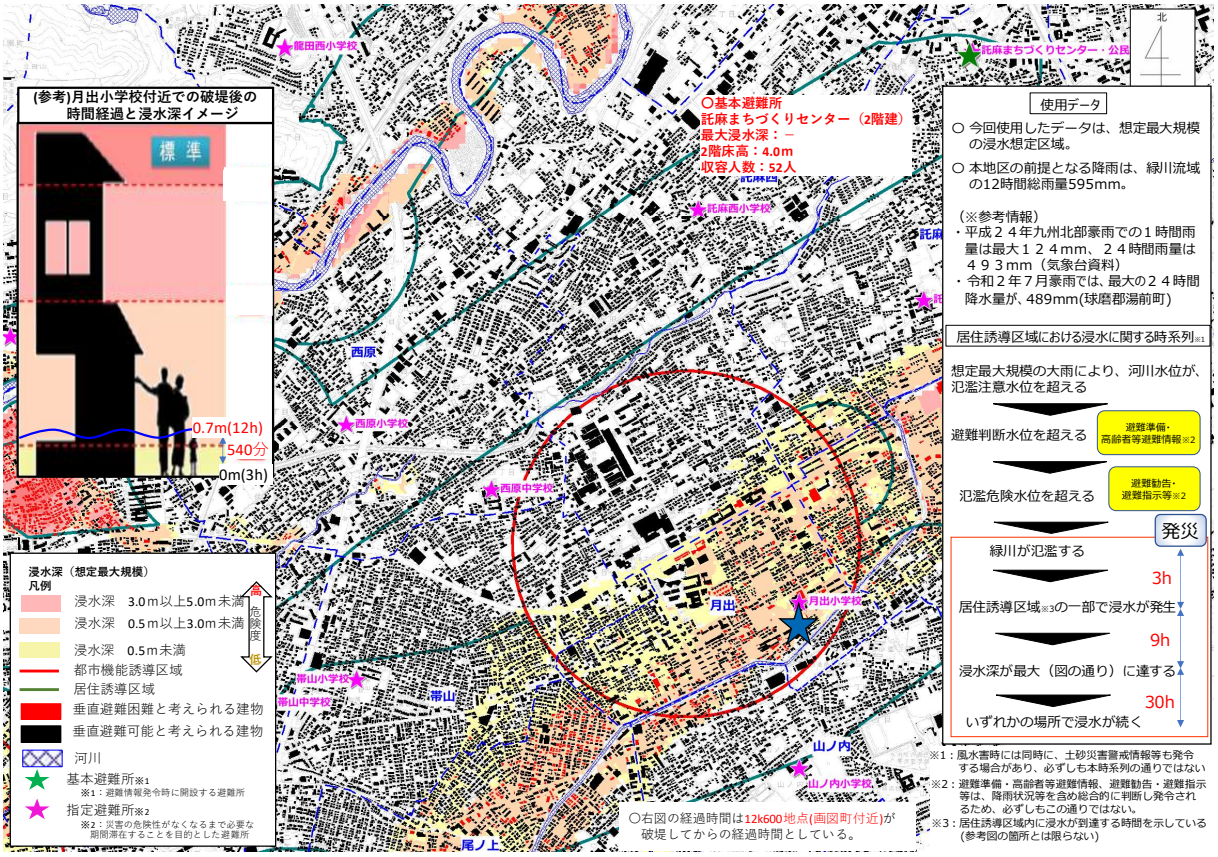
〔地区関連〕
・5つの校区があり、校区防災連絡会設立割合は60%。
・79の自治会があり、自主防災クラブ設立割合は68%、
地域版ハザードマップ作成割合は20%。
・64の要配慮者利用施設が存在。

目安活用の例
1 水平避難の確認
※避難に要する時間を考える際は、荒天時を想定してください。
1）左下図(イ)を使って、自宅に一番近い避難所と自宅は、どれくらい時間がかかるか確認してください。
2）自宅のある場所の浸水到達時間を確認してください
3）1)と2)の時間を比べて、浸水するまでに避難所に避難ができるかを確認してください。
2 垂直避難の確認
※一般的な住宅は、1階の天井の高は地面から3m、2階の天井の高さは地面から5mです。
4）左上図（ア）を使って、自宅の浸水深を確認し、垂直避難が可能か確認してください。
3 備蓄量の確認
5）上図(ウ)を使って、浸水継続時間を確認し、備蓄する品物や容量を確認してください。
（例：食料、飲料水、生活必需品等）

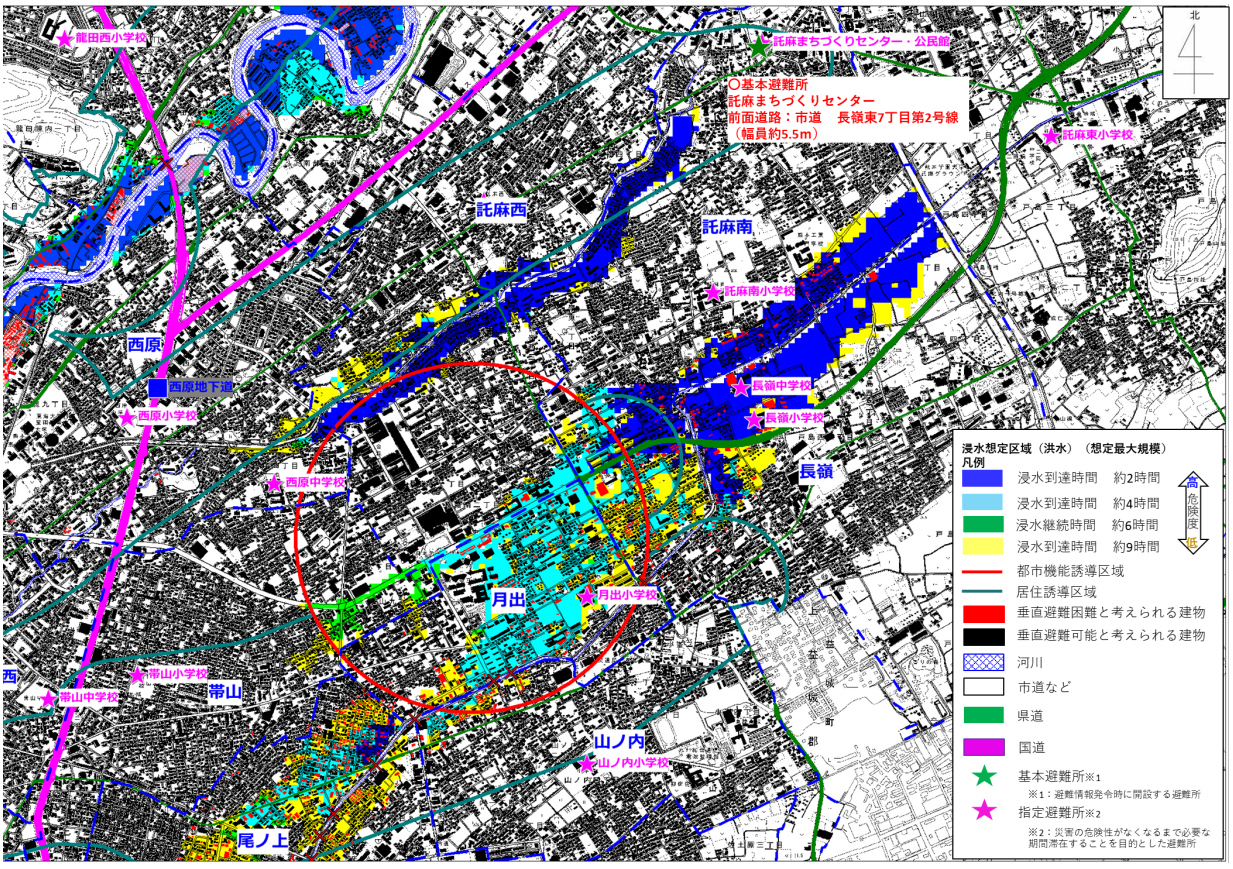
課題
・校区防災連絡会設立割合が60%、自主防災クラブ結成割合が約68%、地域版ハザードマップ作成割合が約20%であり、地区のソフト基盤が充実していない。
・垂直避難困難な建物の割合が約5割あり、地区内人口も多いため、避難所のみでは対応が難しい。
・指定避難所である、壺川小学校、竜南中学校、必由館高校は、浸水リスクが高い区域にあり、避難時には注意が必要。

【(参考資料)個別の分析結果(⑥長嶺地区)】

(ア)浸水深と都市情報の組み合わせ

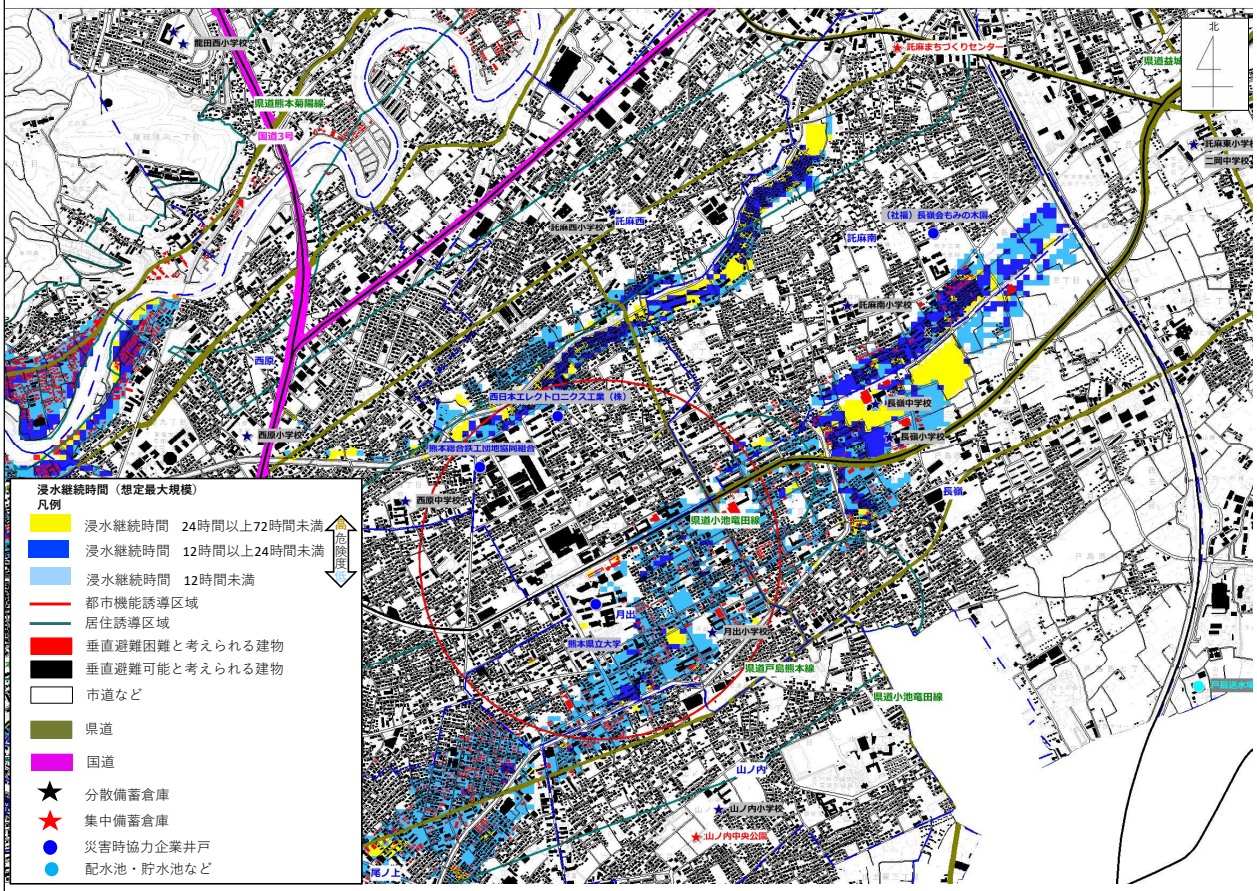


(イ)浸水到達時間と都市情報の組み合わせ



【(参考資料)個別の分析結果(⑥長嶺地区)】

(ウ)浸水継続時間と都市情報の組み合わせ



目安となる情報と個別の課題(⑥長嶺地区)

〔基礎情報〕
・地区内人口は、65,944人で、人口密度は87.1人/ha 。
・地区内高齢者割合は、23.2% 。

〔防災基盤（避難所関連情報等）〕
・基本避難所は、託麻まちづくりセンター
　約3,200m圏で、居住誘導区域を包含。2階建（収容人数約52人）、床高4.0m
・指定避難所は4か所（託麻西小学校、月出小学校、帯山小学校、帯山中学校）。
　約500m圏で、居住誘導区域を包含。
・集中備蓄倉庫はなし、分散備蓄倉庫は5か所、災害時協力企業井戸は3か所存在。

〔災害リスク情報〕
・垂直避難に必要な階数　区域(浸水深0.5m～3.0m)は2階以上。
　区域(浸水深3.0m～5.0m)は3階以上。
・(月出小学校付近の場合)白川破堤後、約3時間で浸水が到達し、
　到達後約9時間で浸水深が約0.7mとなり、
　避難困難になると考えられる。
・河川橋が7か所あり、通行時には注意が必要。
・基本避難所周辺の道路幅員は約5.5m。
　(市道　長嶺東7丁目第2号線)
・地区の多くが1日以内の浸水継続。

〔地区関連〕
・8つの校区があり、校区防災連絡会設立割合は100%。
・42の自治会があり、自主防災クラブ設立割合は93%、
　地域版ハザードマップ作成割合は56%。
・134の要配慮者利用施設が存在。

目安活用の例

1 水平避難の確認
※避難に要する時間を考える際は、荒天時を想定してください。
1）左下図(イ)を使って、自宅に一番近い避難所と自宅は、どれくらい時間がかかるか確認してください。
2）自宅のある場所の浸水到達時間を確認してください
3）1)と2)の時間を比べて、浸水するまでに避難所に避難ができるかを確認してください。

2 垂直避難の確認
※一般的な住宅は、1階の天井の高は地面から3m、2階の天井の高さは地面から5mです。
4）左上図（ア）を使って、自宅の浸水深を確認し、垂直避難が可能か確認してください。

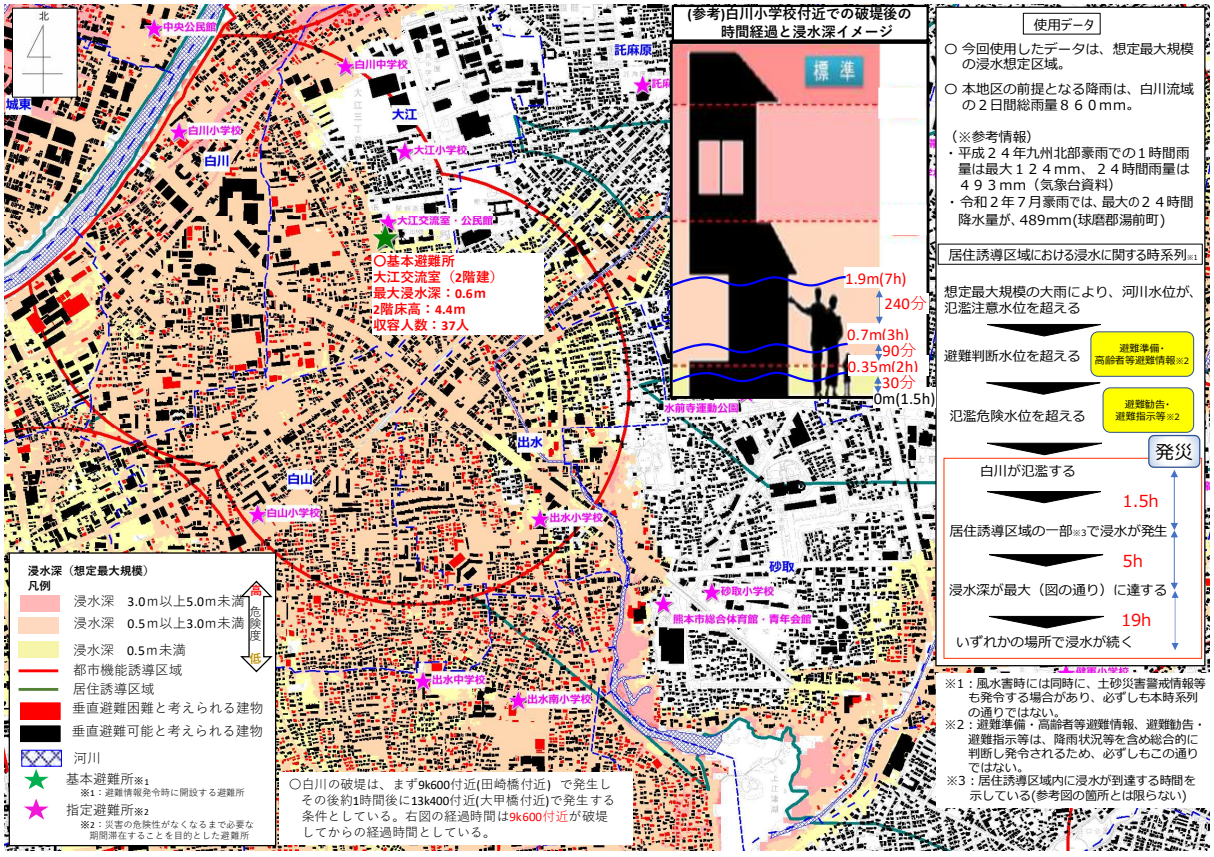
3 備蓄量の確認
5）上図(ウ)を使って、浸水継続時間を確認し、備蓄する品物や容量を確認してください。
（例：食料、飲料水、生活必需品等）

課題

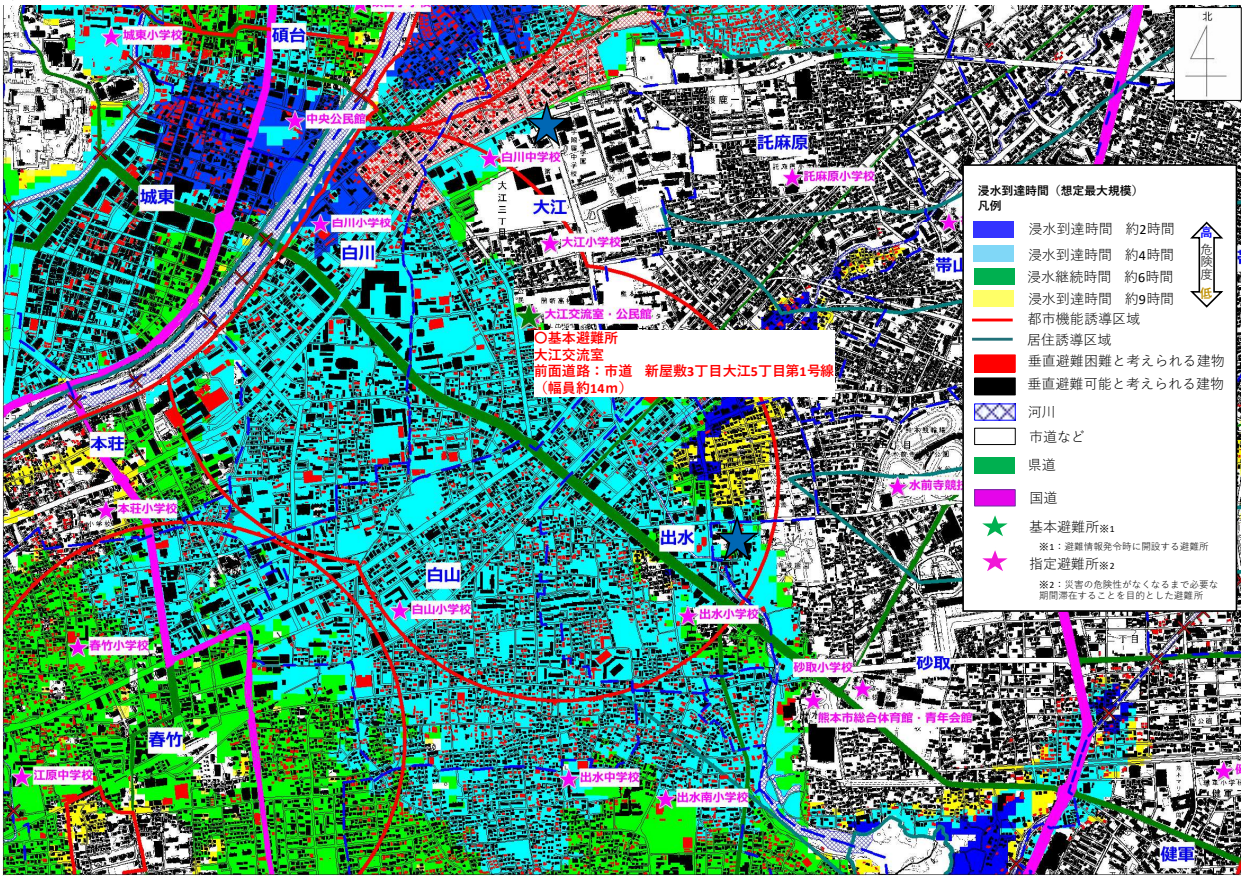
・自主防災クラブ結成割合が約93%、地域版ハザードマップ作成割合が約56%であり、作成の推進が望ましい。
・基本避難所まで約3,000m以上かかる箇所があり、地区内のその他施設との調整が望ましい。
・地区全体での水害時のリスクは高くないことから、白川付近や他市町村等の避難施設と調整を行う余地がある。

【(参考資料)個別の分析結果(⑦水前寺・九品寺地区)】

(ア)浸水深と都市情報の組み合わせ

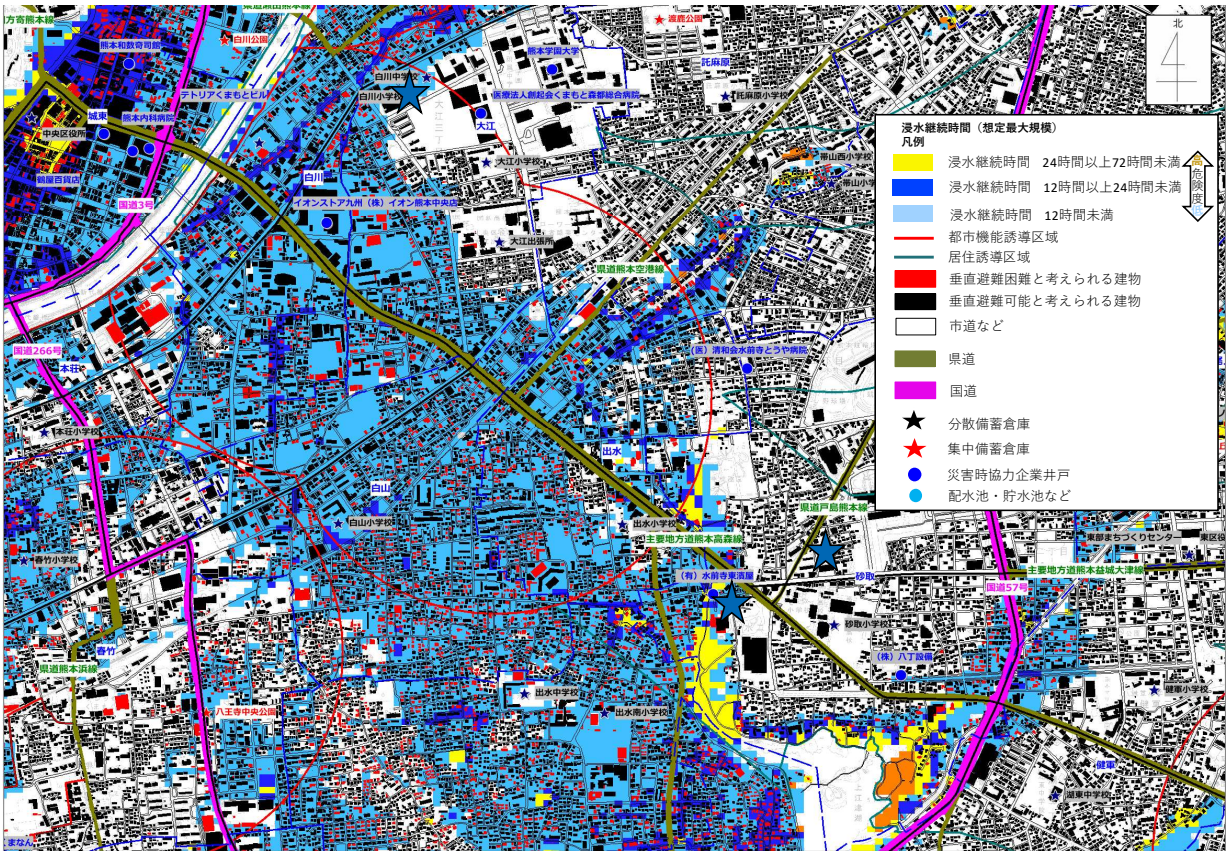


(イ)浸水到達時間と都市情報の組み合わせ



【(参考資料)個別の分析結果(⑦水前寺・九品寺地区)】

(ウ)浸水継続時間と都市情報の組み合わせ



目安となる情報と個別の課題(⑦水前寺・九品寺地区)

〔基礎情報〕
・地区内人口は、71,411人で、人口密度は86.9人/ha 。
・地区内高齢者割合は、22.9% 。

〔防災基盤（避難所関連情報等）〕
・防災拠点（上下水道局庁舎、消防局庁舎、総合体育館）が存在。
・基本避難所は、大江交流室
約1,600m圏で、居住誘導区域を包含。2階建（収容人数約37人）、床高4.4m、最大浸水深0.6m
・指定避難所は7か所（白川小学校、白川中学校、大江小学校、白山小学校、出水小学校、砂取小学校、熊本市総合体育館・青年会館）。
約500m圏で、居住誘導区域を包含。
・集中備蓄倉庫はなし、分散備蓄倉庫は7か所、災害時協力企業井戸は6か所存在。

〔災害リスク情報〕
・垂直避難に必要な階数　　区域(浸水深0.5m～3.0m)は2階以上。
　　区域(浸水深3.0m～5.0m)は3階以上。
・(白川小学校付近の場合)白川破堤後、約1.5時間で浸水が到達し、到達後約2時間で浸水深が約0.4mとなり、避難困難になると考えられる。
・河川橋はないが、白川が北西部に存在しているため、避難する方向には注意が必要。
・白川周辺に家屋倒壊等氾濫想定区域（氾濫流）が存在するが、
基本避難所及び指定避難所が近接して区域外に存在。
・基本避難所周辺の道路幅員は約14m。
（市道　新屋敷3丁目大江5丁目第1号線）
・地区の多くが1日以内の浸水継続。

〔地区関連〕
・9つの校区があり、校区防災連絡会設立割合は89%。
・95の自治会があり、自主防災クラブ設立割合は77%、
地域版ハザードマップ作成割合は23%。
・215の要配慮者利用施設が存在。

目安活用の例

1 水平避難の確認
※避難に要する時間を考える際は、荒天時を想定してください。
1）左下図(イ)を使って、自宅に一番近い避難所と自宅は、どれくらい時間がかかるか確認してください。
2）自宅のある場所の浸水到達時間を確認してください。
3）1)と2)の時間を比べて、浸水するまでに避難所に避難ができるかを確認してください。
2 垂直避難の確認
※一般的な住宅は、1階の天井の高は地面から3m、2階の天井の高さは地面から5mです。
4）左上図（ア）を使って、自宅の浸水深を確認し、垂直避難が可能か確認してください。

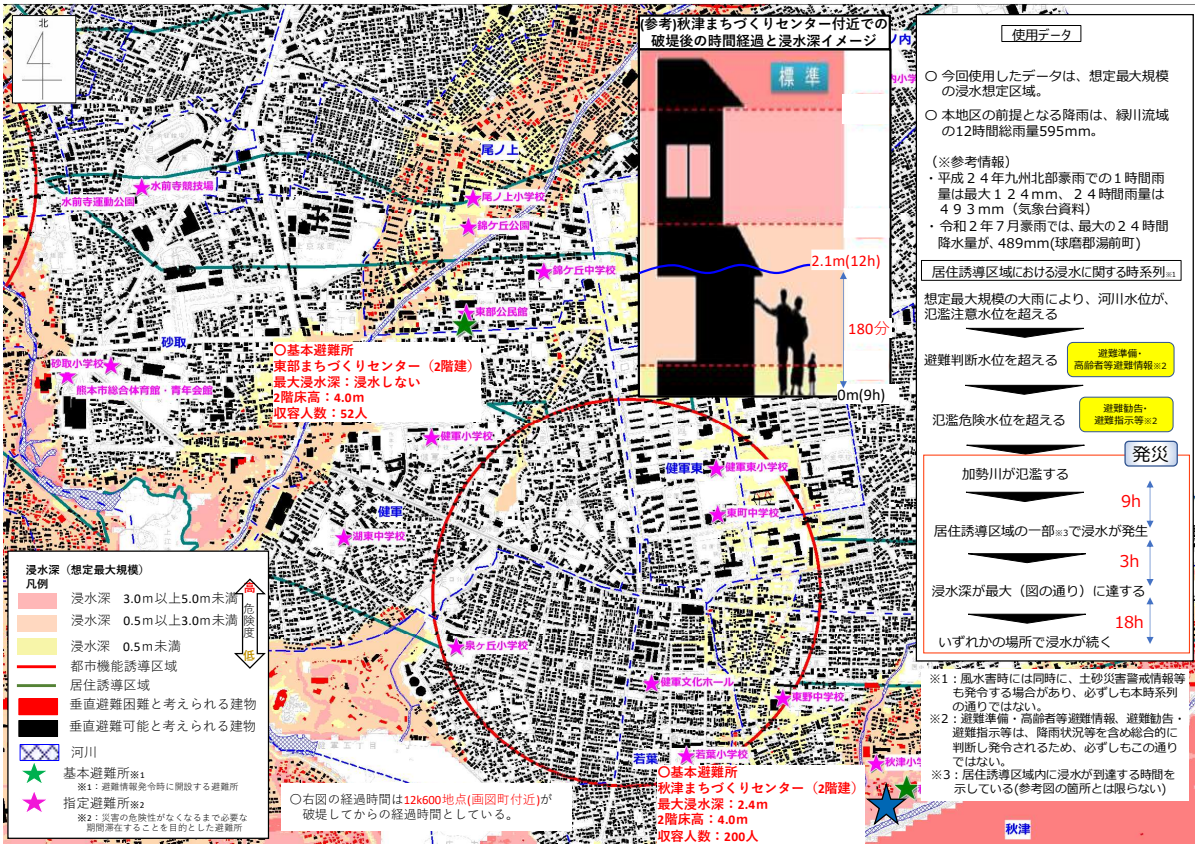
3 備蓄量の確認
5）上図(ウ)を使って、浸水継続時間を確認し、備蓄する品物や容量を確認してください。
（例：食料、飲料水、生活必需品等）

課題

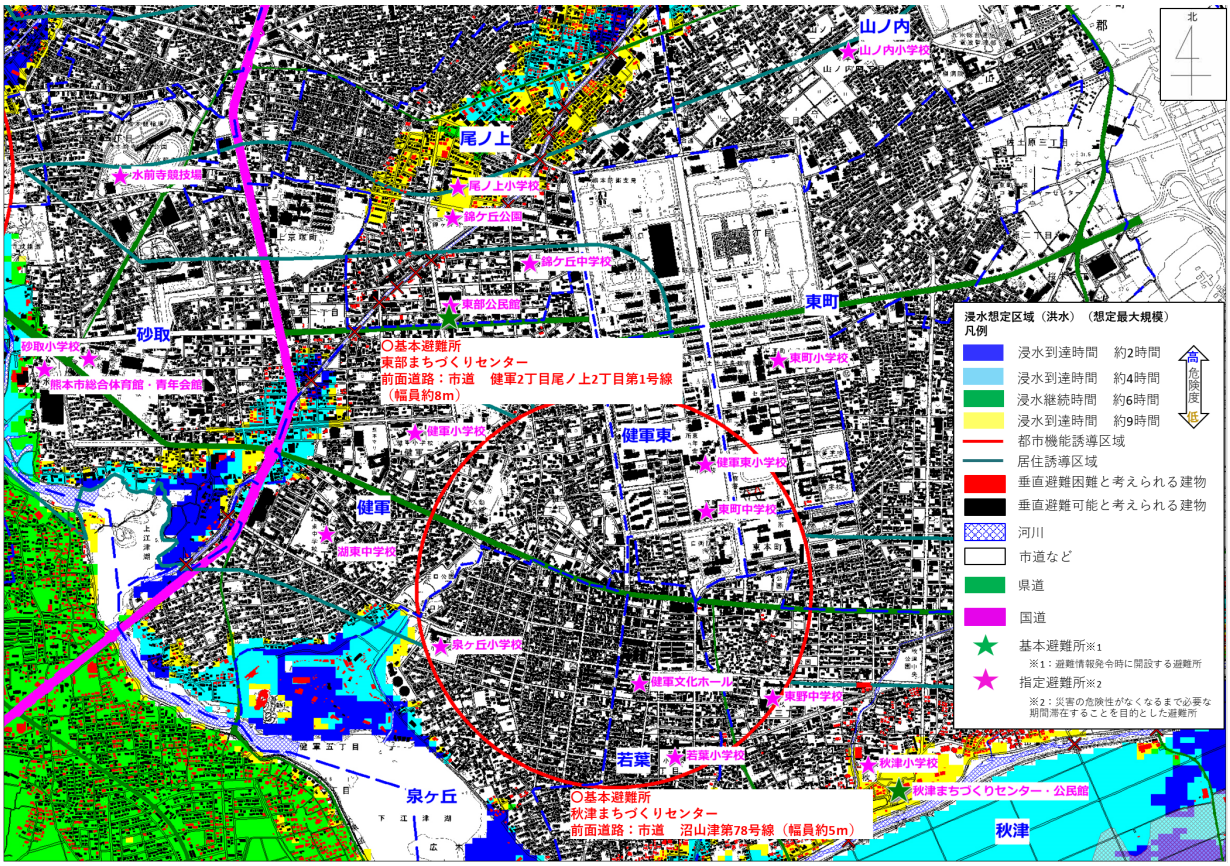
・北部に白川が蛇行している区間があり、家屋倒壊等氾濫想定区域(氾濫流)も存在するため、避難及び通行時には注意が必要。
・校区防災連絡会設立割合が89%、自主防災クラブ結成割合が約83%、地域版ハザードマップ作成割合が約40%であり、地区のソフト基盤が充実していない。

【(参考資料)個別の分析結果(⑧健軍地区)】

(ア)浸水深と都市情報の組み合わせ

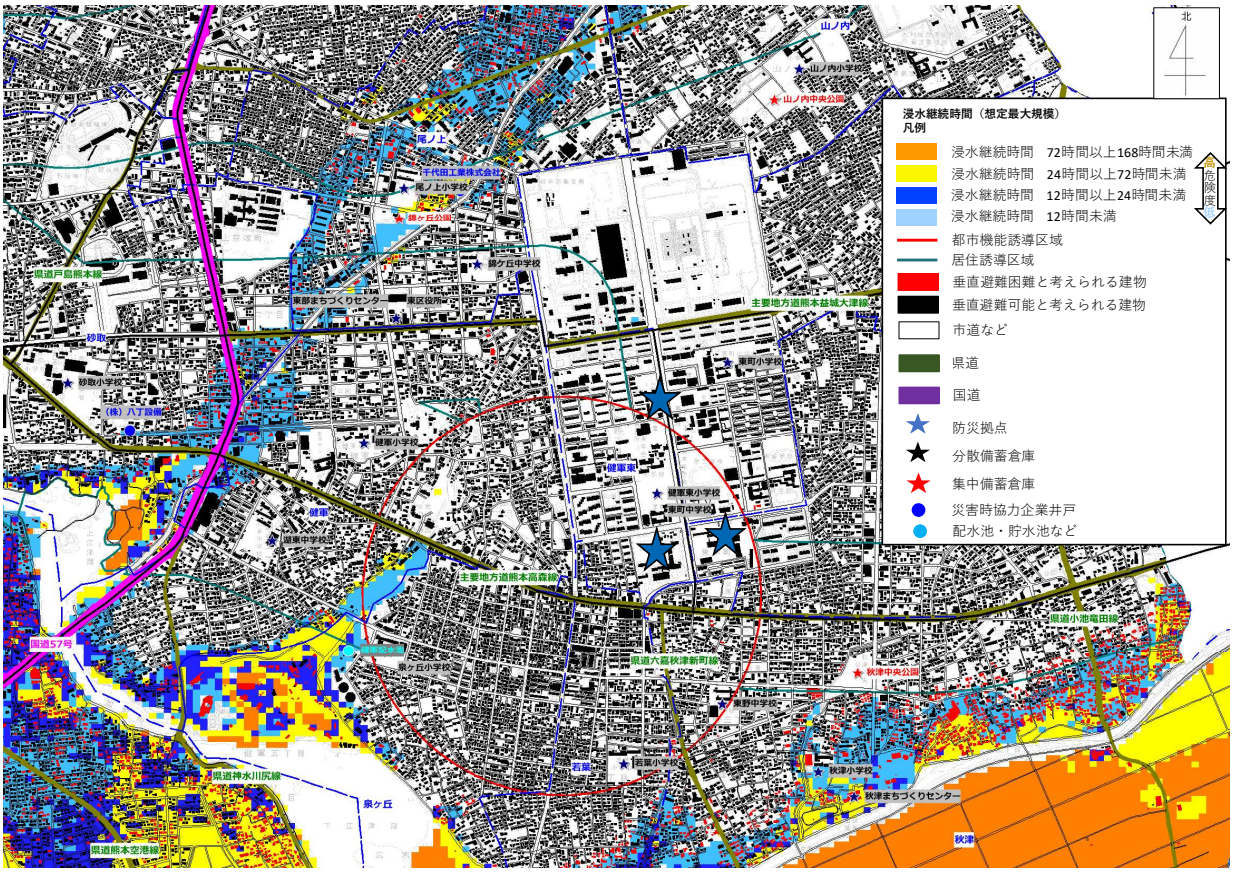


(イ)浸水到達時間と都市情報の組み合わせ



【(参考資料)個別の分析結果(⑧健軍地区)】

(ウ)浸水継続時間と都市情報の組み合わせ



目安となる情報と個別の課題(⑧健軍地区)

〔基礎情報〕
・地区内人口は、49,726人で、人口密度は81.7人/ha。
・地区内高齢者割合は、25.5%。

〔防災基盤（避難所関連情報等）〕
・防災拠点（東区役所、市民病院、東消防署）が存在。
・基本避難所は、東部まちづくりセンター(2階建（収容人数約52人）、床高4.0m)、
秋津まちづくりセンター(2階建（収容人数約200人）、床高4.0m、最大浸水深3.6m(※居住誘導区域外)
約1,000m圏で、居住誘導区域を包含。
・指定避難所は7か所（健軍小学校、湖東中学校、泉ヶ丘小学校、錦ヶ丘中学校、健軍東小学校、東町中学校、
東野中学校 、若葉小学校、健軍文化ホール）。
約500m圏で、居住誘導区域を包含。
・集中備蓄倉庫は1か所、分散備蓄倉庫は9か所、災害時協力企業井戸は1か所存在。

〔災害リスク情報〕
・垂直避難に必要な階数　区域(浸水深0.5m～3.0m)は2階以上。
区域(浸水深3.0m～5.0m)は3階以上。
・(秋津まちづくりセンター付近の場合)白川破堤後、約9時間で浸水が到達し、
到達後約3時間で浸水深が約2.1mとなり、避難困難になると考えられる。
・河川橋が4か所あり、通行時には注意が必要。
・基本避難所周辺の道路幅員は東部まちづくりセンターで約8m。
（市道　健軍２丁目尾ノ上２丁目第１号線）
秋津まちづくりセンターで約5m。
（市道　沼山津第78号線）
・地区の多くは1日以内の浸水継続だが、江津湖周辺では、
約3日浸水が継続する箇所が存在。

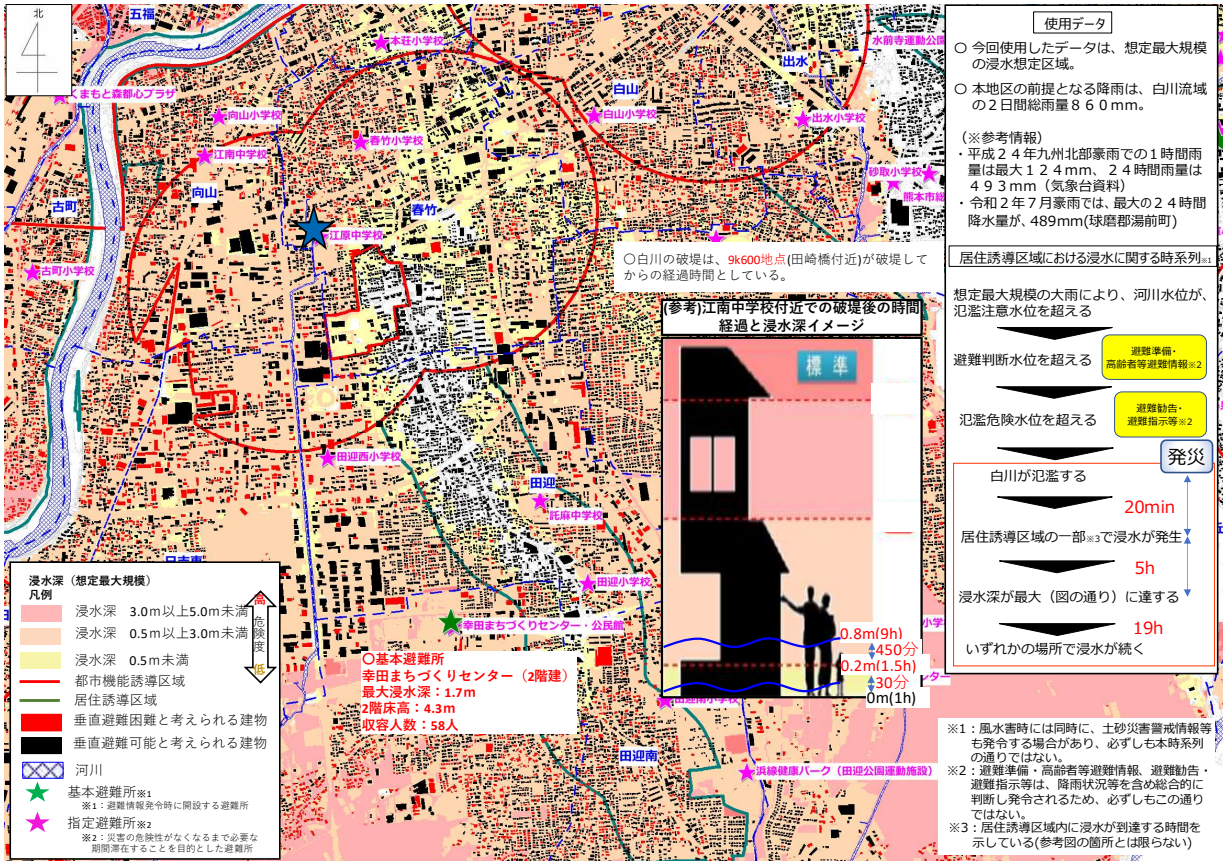
目安活用の例
1 水平避難の確認
※避難に要する時間を考える際は、荒天時を想定してください。
1） 左下図(イ)を使って、自宅に一番近い避難所と自宅は、どれくらい時間がかかるか確認してください。
2） 自宅のある場所の浸水到達時間を確認してください
3） 1)と2)の時間を比べて、浸水するまでに避難所に避難ができるかを確認してください。
2 垂直避難の確認
※一般的な住宅は、1階の天井の高は地面から3m、2階の天井の高さは地面から5mです。
4） 左上図（ア）を使って、自宅の浸水深を確認し、垂直避難が可能か確認してください。
3 備蓄量の確認
5） 上図(ウ)を使って、浸水継続時間を確認し、備蓄する品物や容量を確認してください。
（例：食料、飲料水、生活必需品等）

〔地区関連〕
・9つの校区があり、校区防災連絡会設立割合は100%。
・73の自治会があり、自主防災クラブ設立割合は88%、
地域版ハザードマップ作成割合は61%。
・215の要配慮者利用施設が存在。

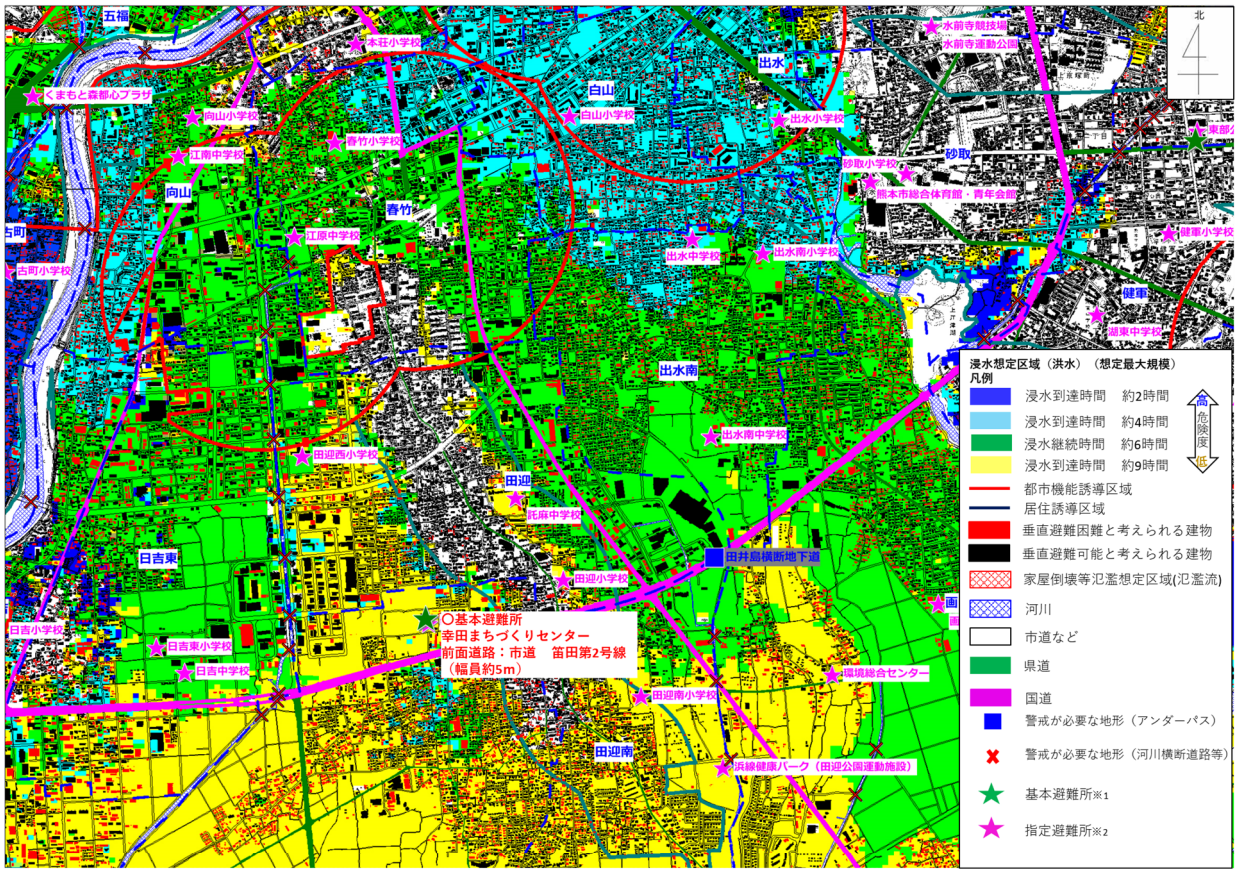
課題
・江津湖周辺は浸水リスク(浸水到達時間、浸水深、浸水継続時間)が高く、通行時等注意が必要。
・自主防災クラブ結成割合が約88%、地域版ハザードマップ作成割合が約61%であり、地区のソフト基盤の充実が望ましい。
・地区全体での水害時のリスクは高くないことから、白川付近や他市町村等の避難施設と調整を行う余地がある。
・基本避難所である、秋津まちづくりセンターは、浸水想定区域にあり、居住誘導区域外であり、周辺道路の幅員も狭い状況。

【(参考資料)個別の分析結果(⑨平成・南熊本地区)】

(ア)浸水深と都市情報の組み合わせ

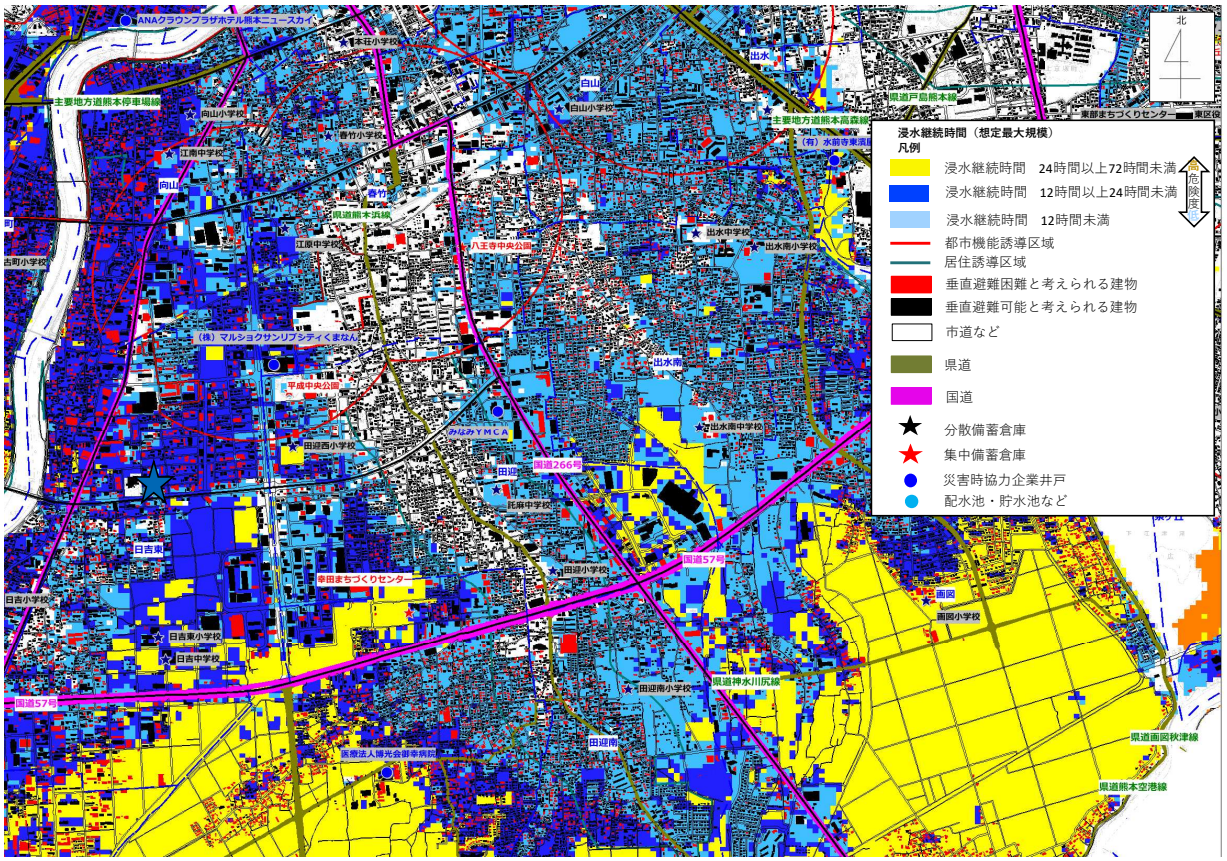


(イ)浸水到達時間と都市情報の組み合わせ



【(参考資料)個別の分析結果(⑨平成・南熊本地区)】

(ウ)浸水継続時間と都市情報の組み合わせ



目安となる情報と個別の課題(⑨平成・南熊本地区)

〔基礎情報〕
・地区内人口は、40,721人で、人口密度は69.5人/ha 。
・地区内高齢者割合は、22.9% 。

〔防災基盤（避難所関連情報等）〕
・防災拠点（南消防署）が存在。
・基本避難所は、幸田まちづくりセンター
約2,400m圏で、居住誘導区域を包含。2階建（収容人数約58人）、床高4.3m、最大浸水深1.7m(※居住誘導区域外)
・指定避難所は8か所（向山小学校、江南中学校、本荘小学校、春竹小学校、江原中学校、田迎小学校、
託麻中学校、田迎南小学校）。
約500m圏で、居住誘導区域を包含。
・集中備蓄倉庫は2か所、分散備蓄倉庫は8か所、災害時協力企業井戸は1か所存在。

〔災害リスク情報〕
・垂直避難に必要な階数　　区域(浸水深0.5m～3.0m)は2階以上。
　　区域(浸水深3.0m～5.0m)は3階以上。
・(江南小学校付近の場合)白川破堤後、約1時間で浸水が到達し、到達後約30分で浸水深が約0.2mとなり、
避難困難になると考えられる。
・河川橋はないが、白川が北西部に存在しているため、避難する方向
には注意が必要。
・基本避難所周辺の道路幅員は約5m。（市道　笛田第2号線）
・地区の多くが1日以内の浸水継続だが、北西部の白川付近
では、約3日間浸水が継続。

〔地区関連〕
・8つの校区があり、校区防災連絡会設立割合は100%。
・72の自治会があり、自主防災クラブ設立割合は83%、
地域版ハザードマップ作成割合は40%。
・215の要配慮者利用施設が存在。

目安活用の例

1 水平避難の確認
※避難に要する時間を考える際は、荒天時を想定してください。
1）左下図(イ)を使って、自宅に一番近い避難所と自宅は、どれくらい時間がかかるか確認してください。
2）自宅のある場所の浸水到達時間を確認してください
3）1)と2)の時間を比べて、浸水するまでに避難所に避難ができるかを確認してください。
2 垂直避難の確認
※一般的な住宅は、1階の天井の高は地面から3m、2階の天井の高さは地面から5mです。
4）左上図（ア）を使って、自宅の浸水深を確認し、垂直避難が可能か確認してください。

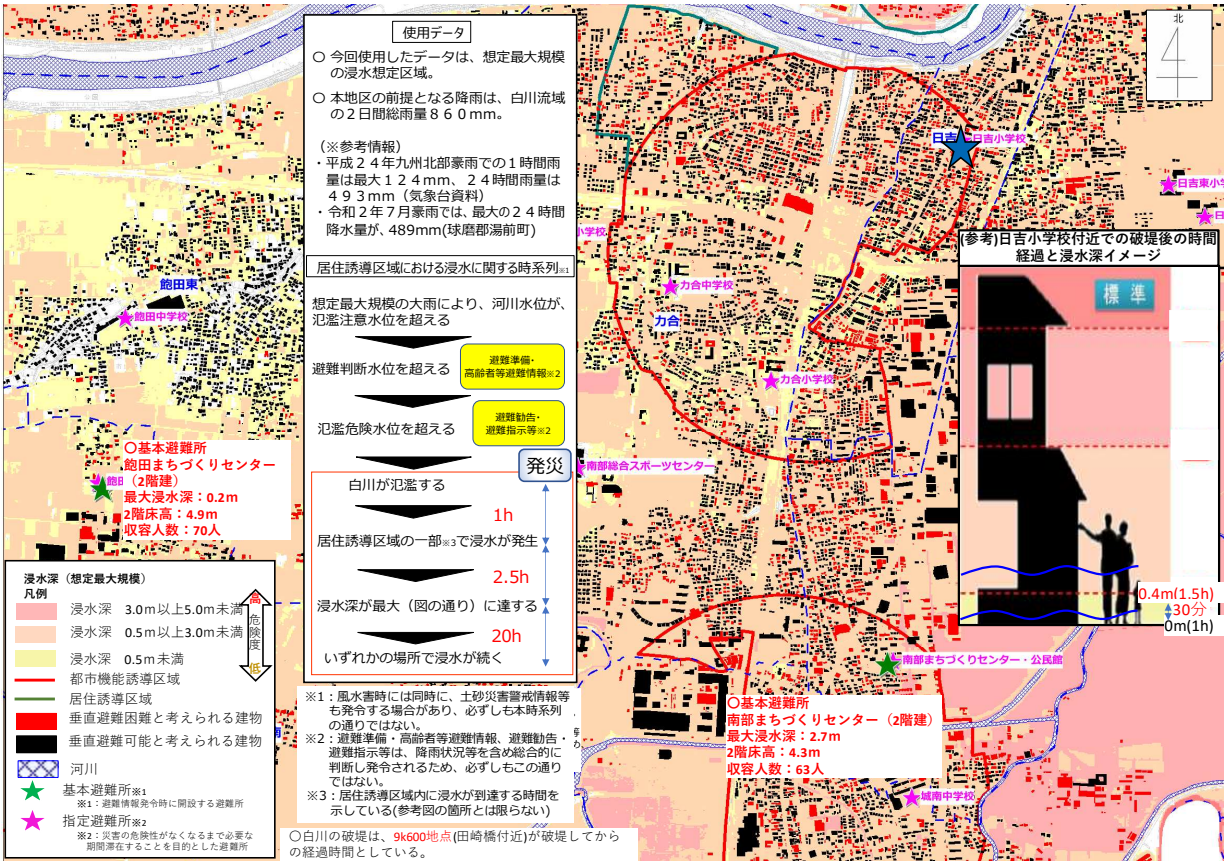
3 備蓄量の確認
5）上図(ウ)を使って、浸水継続時間を確認し、備蓄する品物や容量を確認してください。
（例：食料、飲料水、生活必需品等）

課題

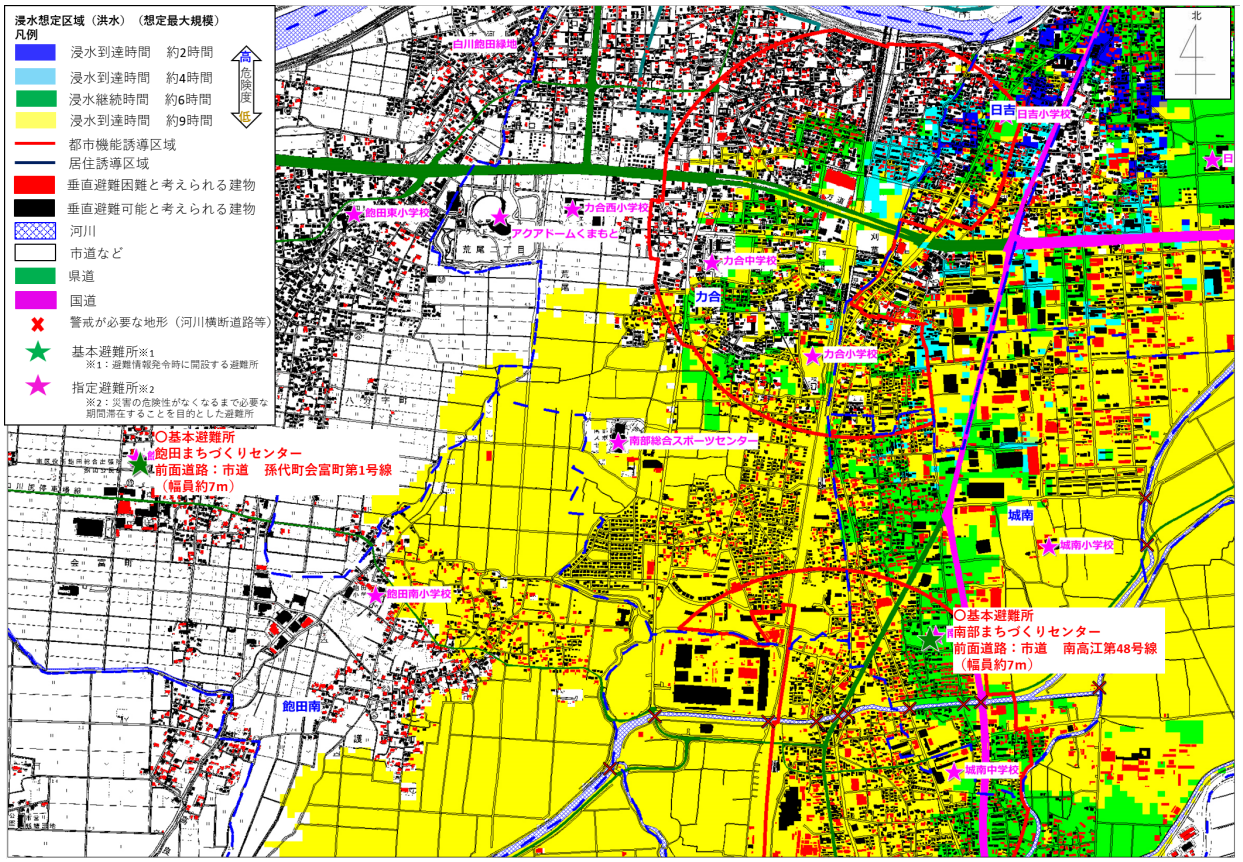
・居住誘導区域内に基本避難所がなく、近接した避難所の道路幅員は約5m。
・自主防災クラブ結成割合が約86%、地域版ハザードマップ作成割合が約46%であり、地区のソフト基盤が
充実していない。
・浸水リスク(浸水到達時間、浸水深、浸水継続時間)が高い白川周辺に指定避難所が存在している。
・地区全体としての浸水リスクは高くないが、白川付近では早期に浸水が到達する箇所がある。

【(参考資料)個別の分析結果(⑩刈草地区)】

(ア)浸水深と都市情報の組み合わせ

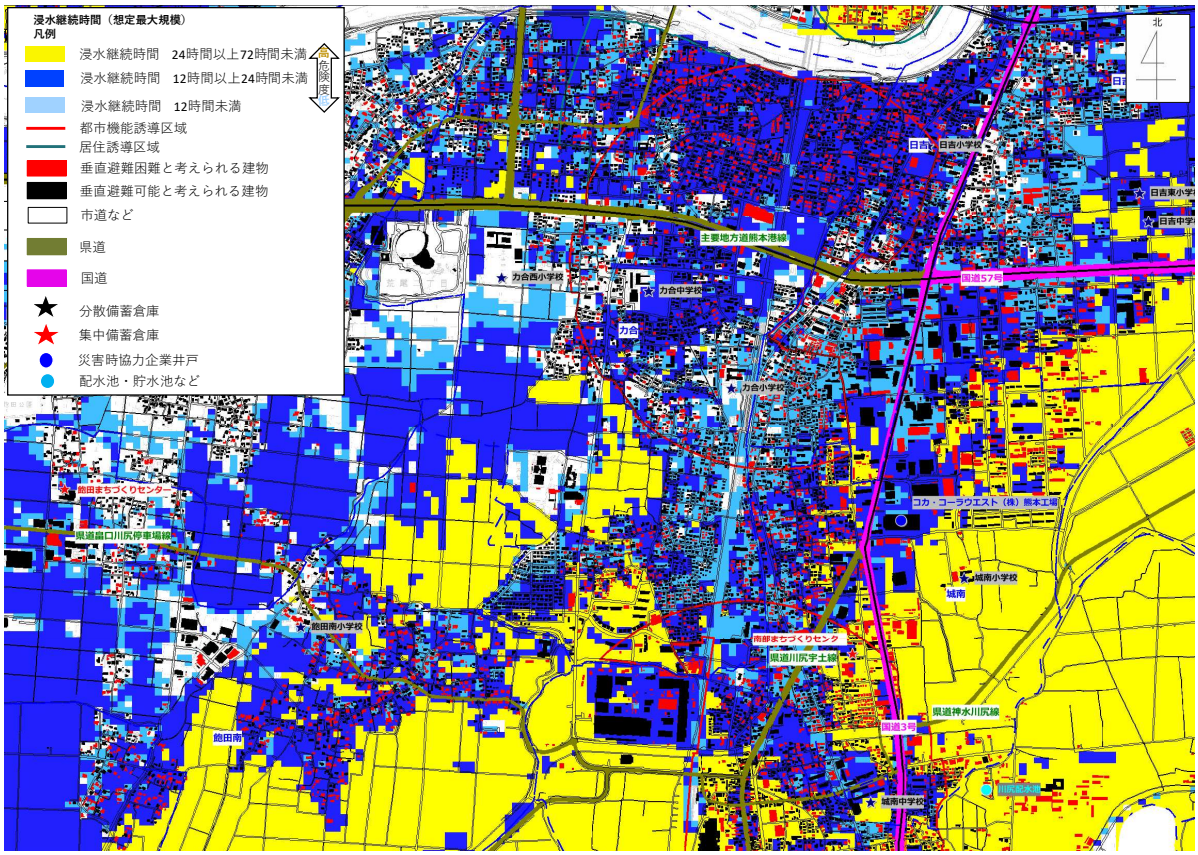


(イ)浸水到達時間と都市情報の組み合わせ



【(参考資料)個別の分析結果(⑩刈草地区)】

(ウ)浸水継続時間と都市情報の組み合わせ



目安となる情報と個別の課題(⑩刈草地区)

〔基礎情報〕
・地区内人口は、12,204人で、人口密度は46.4人/ha 。
・地区内高齢者割合は、23.0% 。

〔防災基盤（避難所関連情報等）〕
・基本避難所は、飽田まちづくりセンター(2階建（収容人数約70人）、床高4.9m、最大浸水深0.2m(※居住誘導区域外))、
南部まちづくりセンター(2階建（収容人数約63人）、床高4.3m、最大浸水深2.7m(※居住誘導区域外))
約2,400m圏で、居住誘導区域を包含。
・指定避難所は3か所（力合小学校、力合中学校、日吉小学校）。
約500m圏で、居住誘導区域を包含。
・集中備蓄倉庫はなし、分散備蓄倉庫は3か所、貯水施設や災害時協力企業井戸はなし。

〔災害リスク情報〕
・垂直避難に必要な階数　　区域(浸水深0.5m～3.0m)は2階以上。
・(日吉小学校付近の場合)白川破堤後、約1時間で浸水が到達し、到達後約30分で浸水深が約0.4mとなり、
避難困難になると考えられる。
・河川橋はないが、白川が北部に存在しているため、避難する方向には注意が必要。
・基本避難所周辺の道路幅員は飽田まちづくりセンターで約7m。（市道　孫代町会富町第１号線）
南部まちづくりセンターで約3m。（市道　南高江第48号線）
・地区の多くが1日以内の浸水継続だが、基本避難所である
南部まちづくりセンター付近では、約3日間浸水が継続。

〔地区関連〕
・6つの校区があり、校区防災連絡会設立割合は100%。
・38の自治会があり、自主防災クラブ設立割合は97%、
地域版ハザードマップ作成割合は95%。
・24の要配慮者利用施設が存在。

目安活用の例

1 水平避難の確認
※避難に要する時間を考える際は、荒天時を想定してください。
1）左下図(イ)を使って、自宅に一番近い避難所と自宅は、どれくらい時間がかかるか確認してください。
2）自宅のある場所の浸水到達時間を確認してください
3）1)と2)の時間を比べて、浸水するまでに避難所に避難ができるかを確認してください。
2 垂直避難の確認
※一般的な住宅は、1階の天井の高は地面から3m、2階の天井の高さは地面から5mです。
4）左上図（ア）を使って、自宅の浸水深を確認し、垂直避難が可能か確認してください。

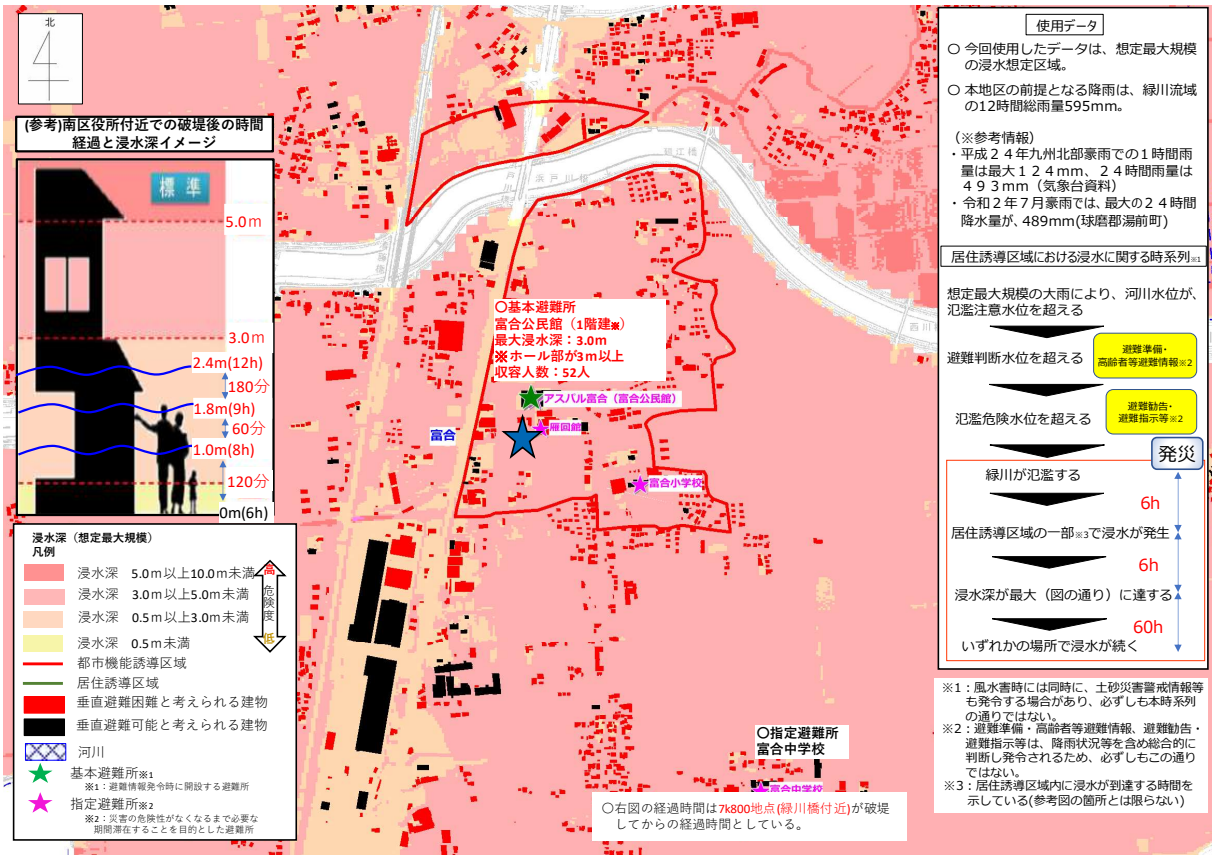
3 備蓄量の確認
5）上図(ウ)を使って、浸水継続時間を確認し、備蓄する品物や容量を確認してください。
（例：食料、飲料水、生活必需品等）

課題

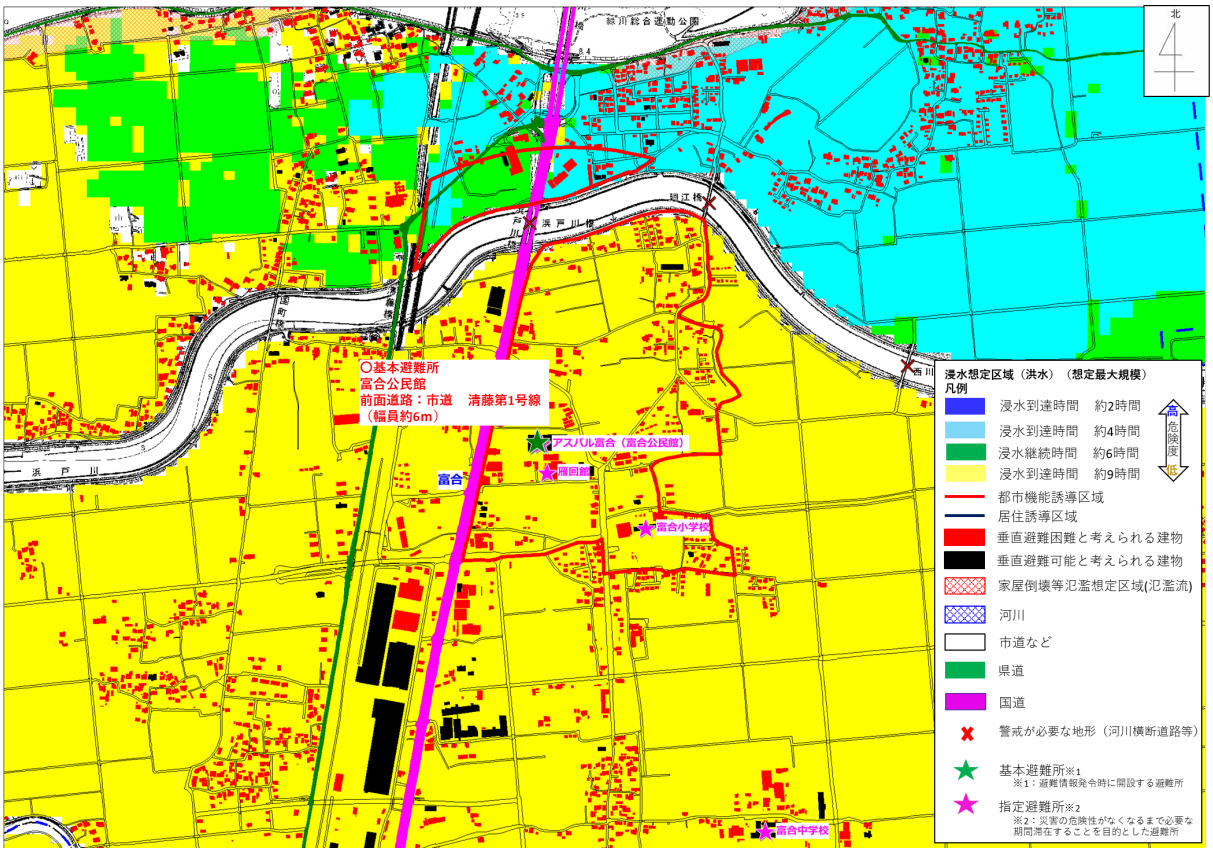
・建物の約4割が垂直避難困難であり、避難所のみでは対応が難しい。
・居住誘導区域内に基本避難所がなく、近接した避難所のうち、南部まちづくりセンターの前面道路幅員は約3m。
・自主防災クラブ結成割合が約97%、地域版ハザードマップ作成割合が約95%であり、作成の推進が望ましい。
・集中備蓄倉庫、貯水施設及び災害時協力企業井戸が存在しない。

【(参考資料)個別の分析結果(⑪富合地区)】

(ア)浸水深と都市情報の組み合わせ

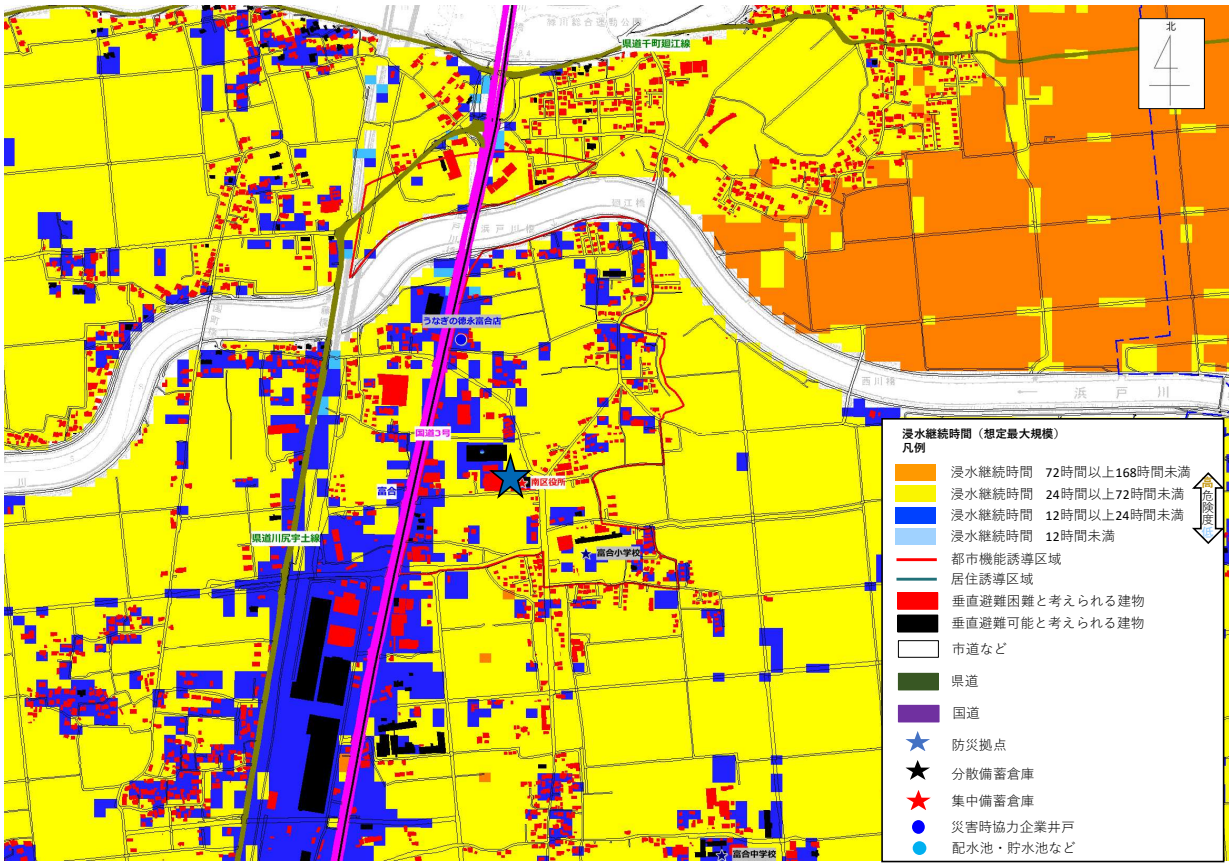


(イ)浸水到達時間と都市情報の組み合わせ



【(参考資料)個別の分析結果(⑪富合地区)】

(ウ)浸水継続時間と都市情報の組み合わせ



目安となる情報と個別の課題(⑪富合地区)

〔基礎情報〕
・地区内人口は、665人で、人口密度は12.5人/ha
・地区内高齢者割合は、15.0%。

〔防災基盤（避難所関連情報等）〕
・防災拠点（南区役所）が存在。
・基本避難所は、富合公民館
約700m圏で、居住誘導区域を包含。1階建※ホール部3.0m以上（収容人数約52人）、最大3.0m浸水）
・指定避難所は2か所（富合小学校、雁回館）
約700m圏で、居住誘導区域を包含。
・集中備蓄倉庫は1か所、分散備蓄倉庫は1か所、災害時協力企業井戸は1か所存在。

〔災害リスク情報〕
・垂直避難に必要な階数　区域(浸水深0.5m～3.0m)は2階以上。
区域(浸水深3.0m～5.0m)は3階以上。
・(南区役所付近の場合)緑川破堤後、約6時間で浸水が到達し、到達後約2時間で浸水深が約1.0mとなり、避難困難になると考えられる。また、地区のほとんどで3.0m以上浸水する。
・河川橋が3か所あり、通行時には注意が必要。
・基本避難所周辺の道路幅員は約6.1m。（市道　清藤第1号線）
・防災拠点である南区役所付近は、約1日間浸水が継続。
・居住誘導区域においては、最大約3日間浸水が継続。
・垂直避難困難な建物が、96%存在。(※想定最大規模時)

〔地区関連〕
・校区防災連絡会設立割合は100%。
・22の自治会があり、自主防災クラブ設立割合は100%、地域版ハザードマップ作成割合は77%。
・96の要配慮者利用施設が存在

目安活用の例

1 水平避難の確認
※避難に要する時間を考える際は、荒天時を想定してください。
1） 左下図(イ)を使って、自宅に一番近い避難所と自宅は、どれくらい時間がかかるか確認してください。
2） 自宅のある場所の浸水到達時間を確認してください
3） 1)と2)の時間を比べて、浸水するまでに避難所に避難ができるかを確認してください。
2 垂直避難の確認
※一般的な住宅は、1階の天井の高は地面から3m、2階の天井の高さは地面から5mです。
4） 左上図（ア）を使って、自宅の浸水深を確認し、垂直避難が可能か確認してください。

3 備蓄量の確認
5） 上図(ウ)を使って、浸水継続時間を確認し、備蓄する品物や容量を確認してください。
（例：食料、飲料水、生活必需品等）

課題

・地区のほとんどが3.0m以上浸水するため、地区内のみでの対応が困難。
・建物の9割以上が、想定最大規模時に垂直避難困難と考えられる。
・地域版ハザードマップ作成割合が約77%であり、作成の推進が望ましい。
・備蓄倉庫や、災害時協力企業井戸も3.0m以上浸水する。